

# シン学校プロジェクト 一宮市立小信中島小学校基本計画 概要

## 1. シン学校プロジェクトとは

シン学校プロジェクトは、少子化が進み児童生徒数が減少する中で、単に古くなった校舎を順番に建て替えていくのではなく、新しい時代にふさわしい学校の在り方について、市民・地域の皆さまからご意見をいただいて、一緒に考えていこうというものです。2024年(令和6)年4月から第1期プロジェクト(前期、後期)の候補となる学校の提案を募集し、小信中島小学校については、校舎減築と校舎改修による機能向上、児童クラブ・防災施設の併設、調理室とプールの撤去などの提案を受け、2024(令和6)年7月の総合教育会議において、前期の対象校に決定しました。

## 2. 整備のコンセプト

ワークショップで提示された整備のコンセプトを以下に示します。

小信中島小学校に現在ある不便を解消することを最優先とし、児童や教職員が心地よく学校生活を送れるように整備します。将来的には次の①～⑤の実現を目指し、放課後や非常時においても児童や地域の人々が安全に過ごせる地域の拠点となるよう、施設の複合化を行います。

### コンセプト

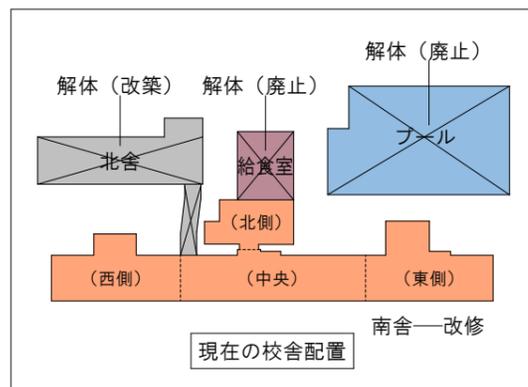
### 児童が安全に、健やかに充実した小学校生活を送ることができる

- ① 校内で過ごす児童の安全性が確保され、学習環境が充実される。
- ② 児童を安心して託せる施設を併設し、放課後も児童が安全に過ごせるようにする。
- ③ 地域の防災拠点として機能を充実・拡大する。
- ④ 地域間・世代間の交流の場を整備し、児童が社会性を身につける機会を設ける。
- ⑤ 地域社会で利用可能な施設を併設し、学校と地域の共生を図る。

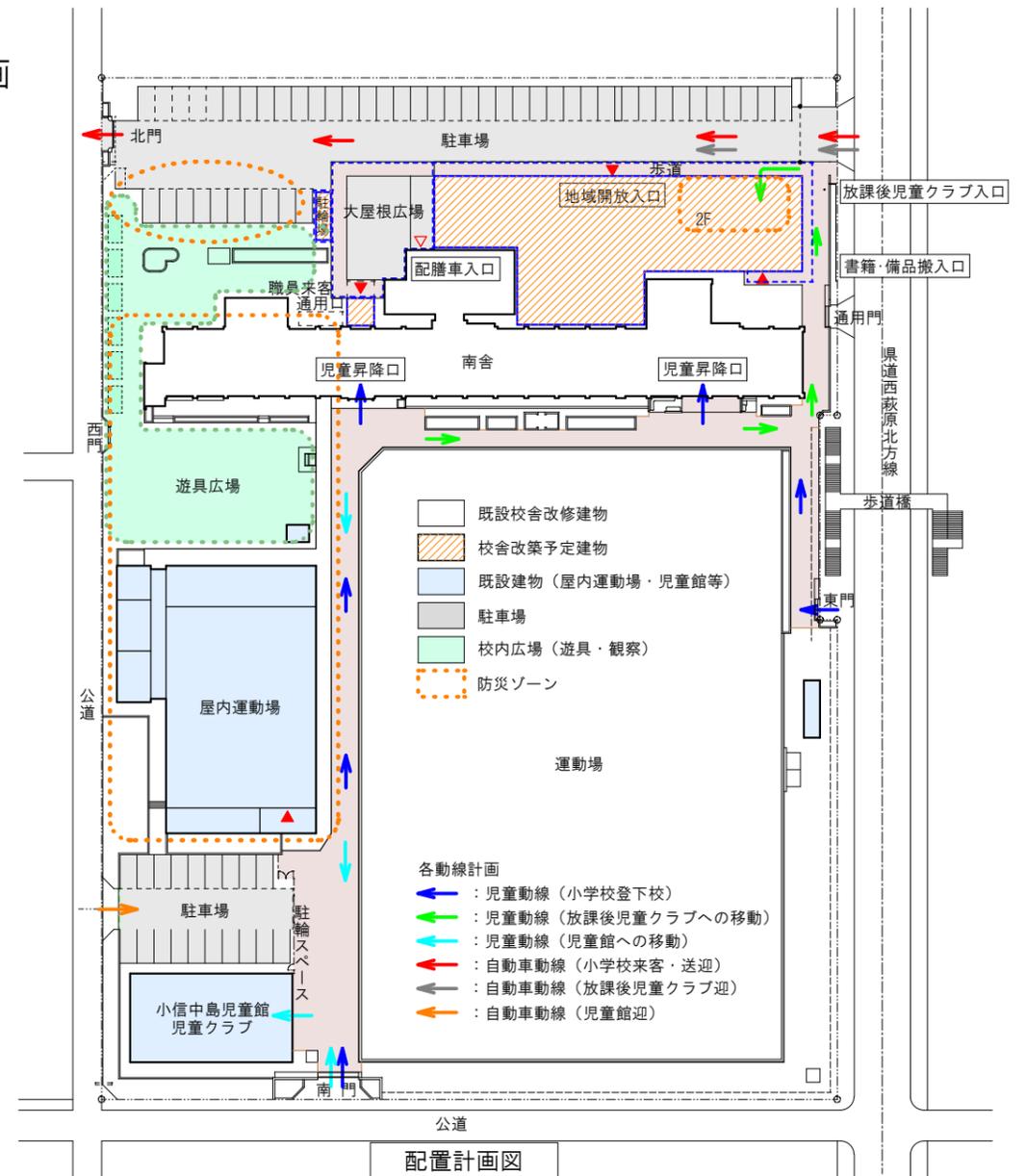
## 3. 整備方針

施設の課題及びワークショップ等による要望事項、行政の視点、教育の視点を考慮し、以下の整備方針とします。

北舎	築年数と共に老朽化が進んでいるため、解体。北舎解体分の教室確保のため、新校舎を建てます。
渡り廊下	使用上の不便のため解体。プールは廃止し、学外施設の利用を検討します。
給食室	単独調理場方式から共同調理場方式へ切替えます。
南舎	構造体はそのままに、内外装や設備を改修します。

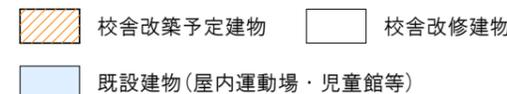


## 4. 配置計画



### 限られた敷地の有効活用

南舎の凹凸にはめ込むような建物形状とすることで、渡り廊下を設けず、限られた敷地を有効活用します。北舎の位置と重複しないので、新校舎建設中も北舎の教室を使います。(仮設校舎は建設しない。)



### 南門付近の歩車分離

北側には学校専用の駐車場を新設し、門・車路・駐車スペースは、大型バスの出入・走行・駐車・転回に対応できる計画とします。南駐車場(児童館利用)は西側道路に向けて車両出入口を設け、南門からの車の出入りをなくします。



### 防災ゾーンのまとまりを意識

災害時の学校運営に配慮するため、災害時に指定避難所となる屋内運動場の付近を「防災ゾーン」として想定。防災ゾーンにおいて炊き出しや給水活動を実施したり、ゴミ置き場を設置したりすることを想定して、教室配置やセキュリティラインを検討します。



### 屋外集合スペースの確保 大屋根広場

雨や夏の強い日差しを遮る広い屋外空間を確保します。下校時の人数チェックや修学旅行の出発式等、一学年が座って待機できる空間として使用できます。十分な高さを設定すれば大型バスも乗り入れ可能になり、濡れずに乗降できます。高さや面積調整が容易というメリットがあります。



## 5. 併設施設の整備方針

小学校に次の施設を併設する計画です。

### 1) 防災スペース

災害時に防災スペースとなる場所を確保します。

防災対策として、非常用コンセント等の設置や倉庫の確保を検討します。

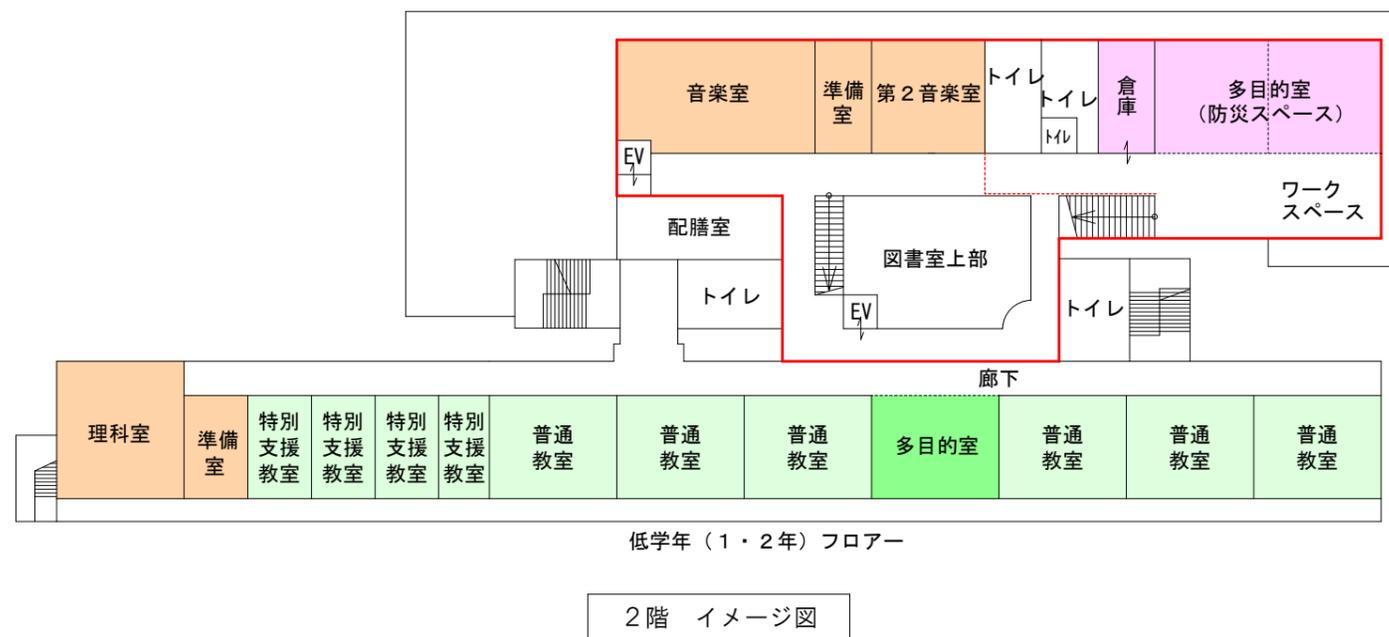
平時利用の利便性向上のため、机椅子の備品と倉庫を確保し、会議、運動など多目的に利用できる広い空間として計画します。

#### 【平時の用途例】

- ・学校の多目的室として集会等に利用
- ・雨天・猛暑日の運動会練習等で利用
- ・児童クラブのプレイルームとして利用
- ・授業の一環で地域の人と触れ合う場所として利用
- ・乳幼児の親子の交流の場所として利用
- ・レンタルスペースとして地域サロン、体操教室等に利用

#### 【非常時の用途例】

- ・警報発令時に一時避難所として利用
- ・倉庫を備蓄倉庫として利用
- ・災害時に防災本部を開設



### 2) 放課後児童クラブ

敷地内にある「小信中島児童館児童クラブ」はそのままに、学校外の小信中島つどの里にある「小信中島児童クラブ」を移設する計画です。

放課後、児童が安心して活動できるゆとりある空間とします。

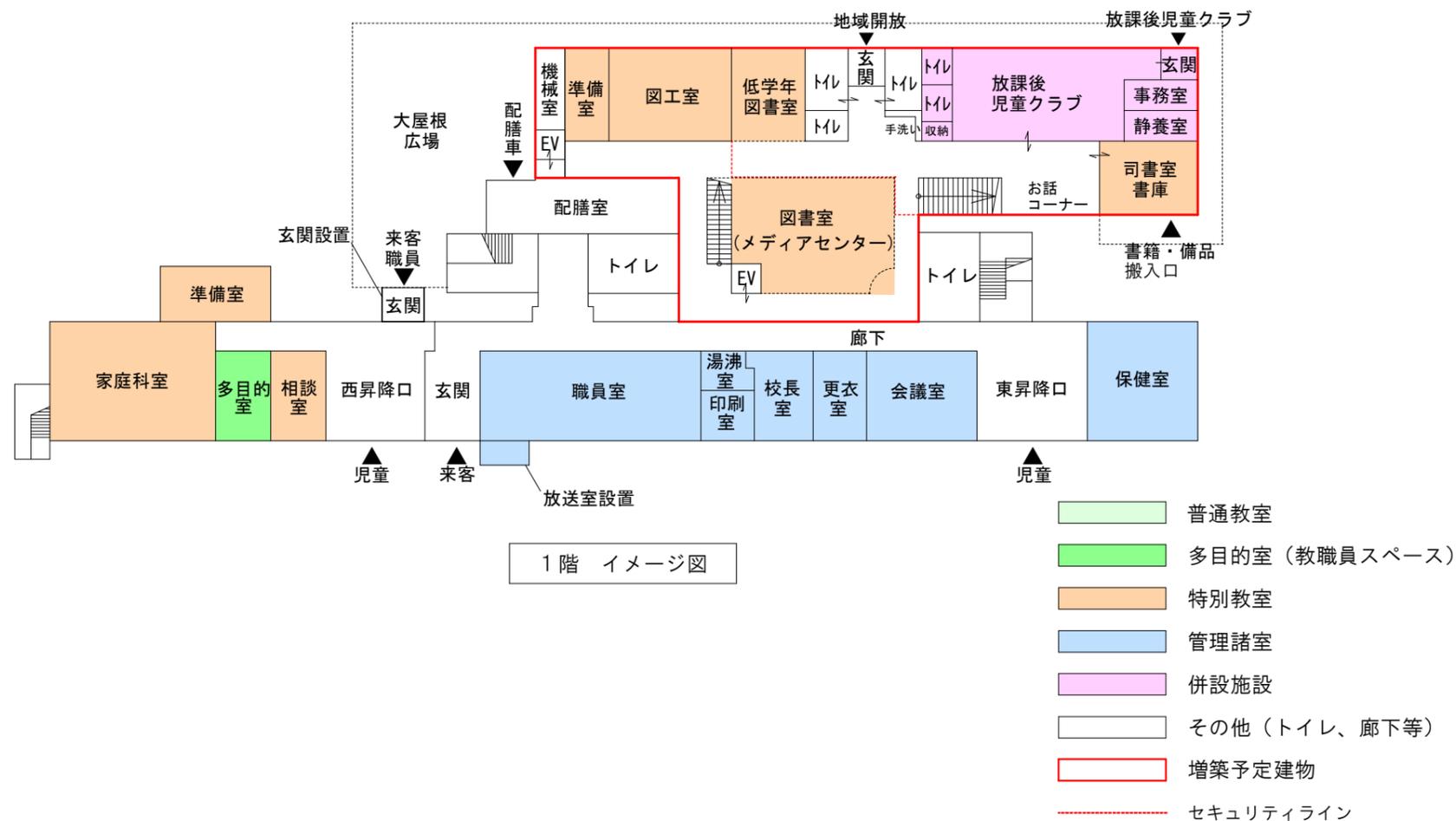
現在の定員が確保できるよう、床面積を確保します。

職員事務室、子どもの静養室を確保し、専用の出入口を設けます。

## 6. 事業スケジュール

2026～2027(令和8～9)年度に基本設計・実施設計、  
2028～2030(令和10～12)年度に建設工事、解体工事、改修工事  
供用開始は概ね2031(令和13)年度を想定しています。

項目	2026(令和8)年度	2027(令和9)年度	2028(令和10)年度	2029(令和11)年度	2030(令和12)年度	2031(令和13)年度
基本設計	実施					
実施設計		実施				
プール・給食室 解体工事			実施			
新校舎建設工事				実施		
北舎 解体工事					実施	
外構工事						実施
校舎改修工事						実施
供用開始						実施



## 7. 概算事業費

施設の概算事業費として、基本計画段階では、約24.1億円を想定しています。  
内訳は設計費等に約1.5億円、校舎新築工事に約8.6億円、校舎改修工事に約11.0億円、解体工事に約2.1億円、外構工事に約0.9億円を想定しています。

## 8. イメージ図

「不足の補充」「現状の改善」「新たな魅力の創出」の3つの観点でまとめます。

### 1) 不足の補充：必要教室の確保

普通教室は、現状同様の18クラスを確保します。その他の教室に関しても現状の教室数を基本としますが、一部教室を廃止・新設します。

#### 廃止・新設する教室

	教室名	廃止/新設の理由
廃止	パソコン室	1人1台タブレットが配布されているため
	スタジオ	1人1台タブレットが配布されているため
	日本間	和室としての機能は必須でないため
新設	特別支援教室	クラス増が予想されるため
	第2音楽室	稼働率が高く、現状では不足しているため

現北舎の教室及び併設施設を新校舎に配置することを基本としますが、今後の設計で適切な教室配置を検討します。

### 2) 現状の改善：児童と教職員の快適性の向上

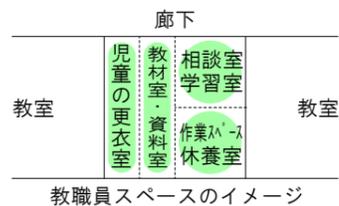
児童と教職員が快適で健康的な学校生活を送るために、現状の学校の改善策として、次のようなことを計画に含んでいます。

#### ■普通教室の考え方

現状にならない、南舎2階に低学年、3階に中学年、4階に高学年を配置し、各学年3クラス分を確保します。1フロアに7教室を並べ、学年間の1教室を「多目的室(教職員スペース)」とします。

#### ■多目的室(教職員スペース)の考え方

教職員が効率的かつ快適に活動できる環境を実現するため、教職員の充実した執務環境を確保します。学年フロアに教職員スペースとして作業や休憩のためのスペースを確保することで、執務環境の充実をはかります。



#### ■多目的利用可能な大空間の確保

新校舎2階に大きな多目的室を配置します。

#### 【必須確保】

- ・第2音楽室

#### 【設計時に確保を検討する教室等】

- ・グループ学習、学年集会のための大空間
- ・多学年交流スペース
- ・低学年用スペース：アルコーブ※、ベンチ、読み聞かせコーナー
- ・中高学年スペース：グループ学習、調べ学習、図書コーナー
- ・学習発表・作品展示スペース
- ・地域住民との交流・社会学習スペース

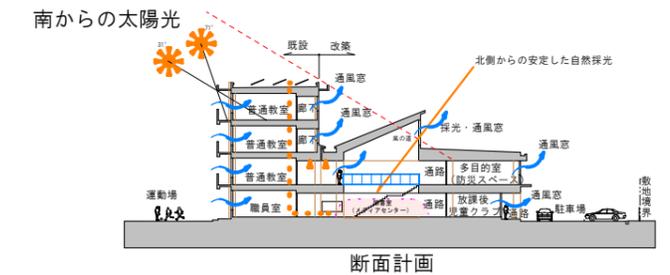
※アルコーブ：壁の一部をくぼませてつくられた、三方を壁に囲まれた小さなスペース

### 3) 新たな魅力の創出

より魅力的な小学校となり、児童や教職員、地域の人が誇りに思う施設となることを目指し、特色ある空間づくりを提案します。

#### ■吹き抜けのある学校

本計画では、1階部分を教室(図書室)とし、上部を吹き抜けとすることで、上部から採光と通風を確保した特長的な空間としています。

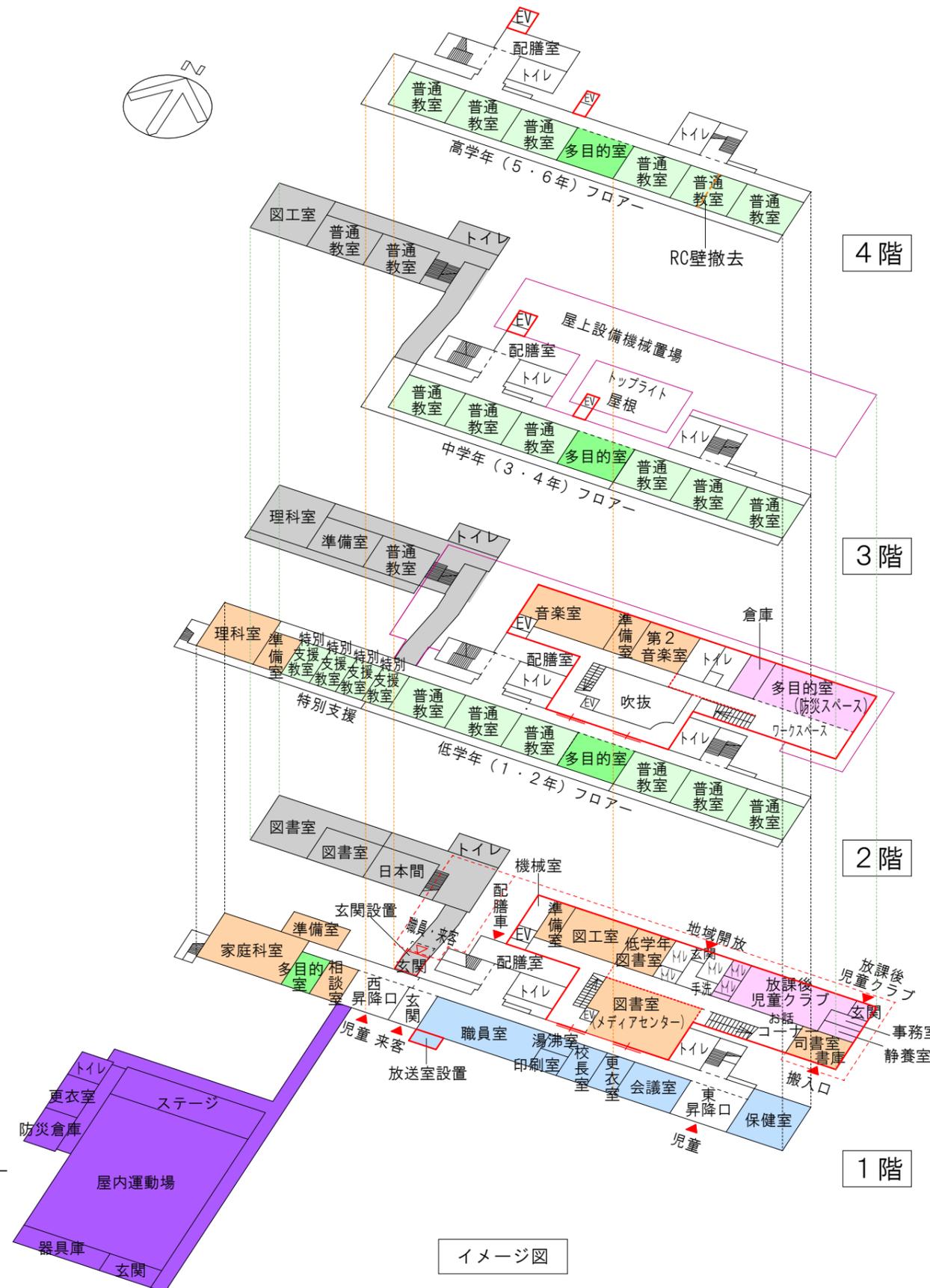


#### ■図書室を中心とした学びの空間

新校舎の中央部に図書室を配置し、吹き抜け空間を介して低学年教室、特別教室(音楽室・第2音楽室)、多目的室(防災スペース)がゆるやかに連続してつながるゾーニングとしています。

図書室回りには、展示・教科ギャラリー等を配置し、児童たちの興味関心を喚起し自学自習しやすい計画としています。

机椅子を各所に配置し、ディスカッションと情報収集が連続的に展開可能な空間としています。



- 普通教室
- 多目的室(教職員スペース)
- 特別教室
- 管理諸室
- 併設施設
- その他(トイレ、廊下等)
- 解体建物
- 既存建物(屋内運動場、渡り廊下)
- 増築予定建物
- セキュリティライン